

平成29年(平成28年度事業)美瑛町まちづくり評価一覧表

番号	事業・施策	所管	区分※	総合評価
1	防災活動事業	総務課	事	継続
2	職員研修事業	総務課	事	継続
3	地域振興奨励補助事業	政策調整課	事	継続
4	異業種人材育成研修事業	政策調整課	事	継続
5	美瑛高等学校教育環境振興補助事業	政策調整課	事	継続
6	農業所得税対策協議会事業	税務課	事	継続
7	狂犬病予防事業	住民生活課	事	継続
8	公衆衛生協会補助金	住民生活課	事	継続
9	福祉ハイヤー借上事業	保健福祉課	事	継続
10	がん検診推進事業	保健福祉課	事	継続
11	子育て支援事業	保健福祉課	事	継続
12	セカンドホームツーリズム事業	経済文化振興課	事	継続
13	中心市街地案内サイン整備事業	経済文化振興課	事	継続
14	人づくり育成事業	経済文化振興課	事	継続
15	米生産安定支援対策事業	農林課	事	継続
16	家畜自衛防疫補助事業	農林課	事	継続
17	林産業担い手対策補助事業	農林課	事	継続
18	街路灯管理事業	建設水道課	事	継続
19	住宅太陽光発電システム設置整備助成事業	建設水道課	事	継続
20	小学生学習ルーム事業	教育委員会	事	継続
21	土曜学習事業	教育委員会	事	継続
22	十勝岳望岳台防災施設整備事業	総務課	公	
23	北町団地2号棟建設事業	住民生活課	公	
24	町道 郎根内上依真布線道路改良舗装事業	建設水道課	公	
25	町道 美沢17線道路改良舗装事業	建設水道課	公	
26	町道 北瑛旭第6線道路改良舗装事業	建設水道課	公	
27	町道 美園村山線道路改良舗装事業	建設水道課	公	
28	町道 旭千代ヶ丘線道路改良舗装事業	建設水道課	公	
29	町道 旭美瑛線道路改良舗装事業	建設水道課	公	
30	町道 丸山通り線道路整備事業	建設水道課	公	
31	丸山公園改修事業	建設水道課	公	
32	憩ヶ森公園改修事業	建設水道課	公	
33	ことぶき公園改修事業	建設水道課	公	
34	双葉配水池更新事業	建設水道課	公	
35	美瑛小学校改修事業	教育委員会	公	
36	美沢小学校改修事業	教育委員会	公	

※ 政:政策評価 事:事務事業評価 公:公共事業評価 再:公共事業再評価

平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 総務課総務係

●事務事業の概要

事務事業名	防災活動事業	事業年度	平成28年度(毎年度実施)			
事業目的	災害に備えた防災活動に要する事業であり、防災訓練及防災教室の開催、防災物品等の整備を行い、災害に強いまちづくりを目指す。					
事業概要	・十勝岳噴火総合防災訓練の実施 ・防災教室の開催 ・避難所用防災物品の購入 ・職員の防災士資格取得					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	2,236,722		250,000			1,986,722
事業費内訳	職員旅費:232,660円 需用費:1,302,587円 役務費:141,051円 委託料:38,880円 備品購入費:204,444円 負担金補助及び交付金:317,100円 合計 2,236,722円				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	町民	把握方法	聞き取り		
	意図・内容	・夜間避難所開設訓練の実施や防災教室への参加を通し、災害時の安全確保について周知を図った。 ・災害発生時に備えた防災物品(災害時用ヘッドライト等)の備蓄を行った。				
	意見・反応等	避難方法等の再考の声を受けて、夜間避難所訓練を実施する等、より実践的な防災対策を進めた。				
過去の評価	年度	27	評価点	21	評価内容	継続
	過去の評価に対する分析		防災体制の強化のため自主防災組織を立ち上げるための助成事業の整備や職員の防災士養成に向けた体制づくりを進めた。			
要望の有無	あり・なし	要望内容	事業の継続			

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	十勝岳の噴火はもとより、近年多発する大雨災害に向けても必須と思われる。	5	
事業効果	4	訓練内容を見直しながら、継続することが重要であり、大雨災害等に対応した新たな訓練項目を検討する。	4	大雨災害時に河川に近づく行為をする人も多く、防災意識の向上を図る取組みが求められる。
町が実施することの妥当性	5	町民の生命と財産を守る為、町が実施していくことは妥当である。	5	
事業の効率性	4	災害物品整備に「地域づくり総合交付金」を活用した。	4	
町民ニーズの把握	4	避難方法等の再考について、色々な場面で意見が寄せられている。	4	
合計	22		22	
説明(現状分析・改善点等)	十勝岳の噴火或いは大雨災害などに備え、行政側からの指示だけでなく、町民自らが考え、行動して自分の身を守る「自助」の考えを理解してもらえよう、今後も継続した実施が必要。また、大雨時の避難所として不適格な避難所がある為、地域防災計画の見直しと合わせて現状に即した避難所の見直しを進める。			
評価に対するまちづくり委員会の意見	特になし			
備考				
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合			

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 総務課職員係

●事務事業の概要

事務事業名	職員研修事業	事業年度	平成28年度(毎年度実施)			
事業目的	町政を取り巻く環境の変化に対応しつつ、それぞれの課題を迅速に解決しながら、効果的な方策を展開し、組織ぐるみで学習する仕組みを確立する。また、職員の意欲を引き出し、高めて、資質・能力の向上と質の高い行政サービスの提供を図ることを目的とする。					
事業概要	職員研修事業においては、自己啓発、職場内研修、職場外研修の3項目を柱に、効率的かつ効果的な研修機会を提供する。					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	3,373,712				529,000	2,844,712
事業費内訳	報償費:241,370円 旅費:2,533,570円 委託料:120,600円 使用料及び賃借料:22,572円 負担金補助及び交付金:455,600円 合計:3,373,712円				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	職員	把握方法	復命書、聞き取り		
	意図・内容	地方公務員としての資質・能力の向上により、質の高い行政サービスの提供を図る。				
	意見・反応等	受講者は各研修のねらいに気づき、今後の業務に活かそうとする意識を持つ職員が多い。				
過去の評価	年度	27	評価点	24	評価内容	継続
	過去の評価に対する分析	職員に対する研修事業は地方公務員法で規定されているとおり必須のものであり、職員数及び階層別職員分布の変化等を含めた中で、常に研修のあり方とその効果を考えていかなければならない。				
要望の有無	あり	なし	要望内容	事業の継続		

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価	
事業の必要性	5	美瑛町人材育成基本方針の方策として計画的な研修事業は必要である。	5		
事業効果	4	多様な研修機会の提供や自己啓発等職員自らの研修提案により、意識の向上を図ることができた。	4	研修目的の明確化、研修の成果・効果を検証し、より効果的な研修の実施が求められる。	
町が実施することの妥当性	5	地公法39条の規定により、研修機会の付与について町が実施することが妥当。	5		
事業の効率性	5	受講助成金の対象となる研修の活用を図っていること。また、町単独では実施不可能な研修の参加機会を提供している。	5		
町民ニーズの把握	5	研修実績の公表	5		
合計	24		24		
説明(現状分析・改善点等)	階層別職員数のバランスが大きく変化してきている中で、若年層の育成と合わせて指導する立場となる中堅・管理職員のマネジメント力が求められており、組織力の向上が喫緊の問題と考える。人材育成を行う手段の一つとして職員研修の重要性を認識し、それぞれが階層別に求められる役割を果たせるよう、効果的な研修機会を構築していかなければならない。				
評価に対するまちづくり委員会の意見	特になし				
備考					
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 政策調整課政策調整係

●事務事業の概要

事務事業名	地域振興奨励補助事業		事業年度	昭和48年～		
事業目的	地域の福祉増進と地域振興を図るために活動している個人、団体、行政区に対して計画的に実施される事業に補助する。					
事業概要	・地域振興奨励事業:地域の交流、産業の開発、発明、発見、試験、試作、研究、文化事業、文化活動などを通じて、町の社会・文化・産業の振興に寄与する個人・団体が行なう事業に対し、事業費2/3以内の範囲以内で、限度額個人50万円、団体100万円を補助。 ・地域活性化事業:地域活性化のための方策、環境改善、生涯学習などを通じて、地域の特性を活かしながら計画的に実施する複数又は単位の行政区及び複数又は単位の町内会に対して、経費の5分の4以内を限度とし、単年度の交付限度額は年額100万円、期間は3年以内。					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	2,660,000				2,660,000	
事業費内訳	負担金補助及び交付金:2,660,000円				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	補助事業者	把握方法	聞き取り		
	意図・内容	各団体の周年記念事業(4件)、農産物を加工した製品の製造販売事業(1件)への補助				
	意見・反応等	円滑な事業実施と地域振興の推進が図られた				
過去の評価	年度	22	評価点	22	評価内容	継続
	過去の評価に対する分析					
要望の有無	あり	なし	要望内容	補助金の継続を要望		

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価	
事業の必要性	5	町民・団体が行なう地域振興に資する事業に対し、助成する制度は必要である。	5		
事業効果	3	地域振興への一定の効果はある。	3	多様な用途に活用してもらえるよう幅広く周知が必要。	
町が実施することの妥当性	5	他に助成制度がない場合、町で助成を行なうことが妥当である。	5		
事業の効率性	5	他に助成制度がない場合が多いが、大半は地域振興に寄与している。	5		
町民ニーズの把握	4	行政区長会議、広報、HPIにおいて周知している。	4	庁内の連携をとりながら、潜在的な需要の把握をすることが必要。	
合計	22		22		
説明 (現状分析・改善点等)	団体の周年記念事業への利用はある程度浸透している。農業・文化振興など幅広い分野での利用促進のため周知方法の検討が必要。				
評価に対するまちづくり委員会の意見	特になし				
備考					
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大 継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 政策調整課政策調整係

●事務事業の概要

事務事業名	異業種人材育成研修事業		事業年度	平成26年～		
事業目的	異業種による人材とチームを組み、多様な視点価値観の中で研修を行うことを通じ、本町が抱える地域課題を解決する提案を行うこと、課題を見極め組織に変革をもたらす次代を担う人材育成を行うことを目的とする。					
事業概要	Session 1 5月14～16日(美瑛町) Session 2 6月4～6日(美瑛町) Session 3 7月2～4日(美瑛町) Session A 8月18日(東京都)		Session 4 8月(美瑛町) Session 5 9月10～11日(美瑛町) Session 6 10月8～9日(東京都) Session 7 10月22～24日(美瑛町)			
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	2,496,393				2,496,393	
事業費内訳	負担金補助及び交付金:2,496,393円				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	研修参加者		把握方法	アンケート及び聞き取り	
	意図・内容	地域課題解決、提案までのプロセス、次代の人材育成を目指した研修内容 参加者:農協1名、慈光会1名、交流の家1名、役場3名				
	意見・反応等	半年間の研修期間は長いと感じたものの、自己のスキルアップにつながり、異業種によるチーム活動により多様な視点、考え方が構築できた。				
過去の評価	年度	27	評価点	23	評価内容	継続
	過去の評価に対する分析					
要望の有無	あり	なし	要望内容	異業種でチームを組み難しい課題に取り組む研修内容は、日常業務では得られない貴重な体験として引き続き職員を参加させたいと意見を頂いている。		

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価	
事業の必要性	5	行政、関係機関における次代を担う人材育成や、外部企業との連携により地域活性化に繋がっている。	5		
事業効果	5	異業種のメンバーにより多様なスキルアップにつながるもの。また提案の中から事業化につながったものもあり有効である。	5	参加企業との連携を活かして人的交流だけでなく他事業の活性化への波及効果を期待する。	
町が実施することの妥当性	5	町内関係機関を巻き込みながら、町全体の人材育成につながるものであり妥当。	5		
事業の効率性	4	参加メンバーにとっては半年間の長期研修であり本業務との調整が必要。	4		
町民ニーズの把握	4	提案発表では広く周知し、提案に対するコメントをもらっている。	4		
合計	23		23		
説明(現状分析・改善点等)	平成25年12月にヤフー株式会社と交わした基本合意の連携事業の一環であり、3年を一区切りとして平成26年度から実施してきた。研修の運営は、より効果的に実施されるよう毎年の振り返りの中で見直しを図ってきた。提案された内容が事業化されたこと、また、異業種社員とチームになって難しい課題に取り組むプロセスは参加者の意識に成長を促し人材育成においても成果があったこと、町内の各企業からの参加して頂いていることから、まちづくりにおいて有効な事業であった。				
評価に対するまちづくり委員会の意見	特になし				
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大 <b>継続</b> ・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 政策調整課政策調整係

●事務事業の概要

事務事業名	美瑛高等学校教育環境振興補助事業		事業年度	平成18年～		
事業目的	少子化による生徒の減少により、統廃合が検討されている美瑛高等学校の生徒募集や就学、生徒会活動に支援を行い、地域の教育環境振興を図る。					
事業概要	美瑛高等学校教育振興後援会が行う1)生徒募集の支援、2)就学支援、3)地域振興に係る支援に加え、入学準備補助、通学補助、資格取得試験補助などを行う。					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	8,981,430			8,500,000		481,430
事業費内訳	負担金補助及び交付金:8,981,430円				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	事業対象者	把握方法	学校における聞き取り等		
	意図・内容	対象者への直接支援や特色ある学校づくりに対して支援を行った				
	意見・反応等	高校を決める際の判断材料の一つとしてあげられている。				
過去の評価	年度	27	評価点	23	評価内容	継続
	過去の評価に対する分析		これまでの教育支援に加え、通学補助、入学準備補助、資格取得試験補助などを行うことによる一定の効果はあるが、少子化の中、さらに本町の特色を活かした魅力ある高校づくりが求められる。			
要望の有無	(あり)・なし		要望内容	補助金の継続を要望		

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価	
事業の必要性	5	本町の人づくりのため重要な位置づけであり町が積極的に支援する必要がある。	5		
事業効果	4	生徒数の確保に一定の効果を上げている。	4		
町が実施することの妥当性	5	町内唯一の高等学校の教育振興に対し、町が支援することは妥当である。	5		
事業の効率性	5	高等学校において取りまとめを行っているため効率的に事業実施されている。	5		
町民ニーズの把握	4	美瑛高等学校の地域貢献活動に対して、町民からの評価が高いが、魅力ある高校づくりが求められている。	4		
合計	23		23		
説明(現状分析・改善点等)	少子化に伴い子どもの絶対数が減少する中、美瑛高校の維持存続のため教育振興後援会に対し補助を行っている。平成28年度はこの補助を活用し、観光協会と連携した観光学習「地域巡検」や北瑛小麦の丘「レストラン・ビブレ」においてマナー教室を開催する等、地域産業や美瑛産食材の理解を深める取組みを行った。教育振興後援会や美瑛町地域教育推進会議、美瑛高校教育推進会議においてもこれからの高校づくりについて協議をしており、コミュニティス・クールの導入も進めながら今後も地域と連携した特色ある学校づくり、カリキュラムの検討が必要である。				
評価に対するまちづくり委員会の意見	目的を明確に持ち有意義な使用方法を望む。				
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大(継続)・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 税務課住民税係

●事務事業の概要

事務事業名	農業所得税対策協議会事業		事業年度	昭和39年度～		
事業目的	農業所得の適正課税を期するために各種事業を行う当該協議会に対して補助金を交付することにより、農業所得の適正課税を推進する。					
事業概要	以下の事業を行う農業所得税対策協議会に対して必要な補助金を交付する。					
	・農業者の所得税(町道民税含む)申告の指導、及び申告書作成の支援。 ・農作物作付の受付、調査及び、農業機械の受付、調査。					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	5,600,000					5,600,000
事業費内訳	負担金補助及び交付金:5,600,000円				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	協議会会員(農業者)		把握方法	会員及び役員からの聞き取り	
	意図・内容	複雑化する税制改正に対応して農業者が適正に所得の申告を行えるよう支援することで、住民税を適正に課税することができる。				
	意見・反応等	農業所得者の申告業務における事務の簡素化と適正化が図られるため、今後も引き続き事業の継続を求める声が上がっている。				
過去の評価	年度	27	評価点	23	評価内容	継続
	過去の評価に対する分析					
要望の有無	あり・なし		要望内容	補助金の継続を要望		

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	農業所得の申告書作成、受付の業務量は膨大であり、支援の必要性は高い。	5	
事業効果	4	農業所得の適正課税推進への効果有。	4	
町が実施することの妥当性	4	農業所得を町で全て個別に受付することは不可能であり、当該業務を行う協議会へ町が補助することは妥当。	4	
事業の効率性	5	農業者に近い協議会が一括して農業者に指導・支援することで高い効率性を実現。	5	
町民ニーズの把握	5	農業者の多くが協議会に加入しており、加入者からニーズを把握している。	5	
合計	23		23	

説明 (現状分析・改善点等)	複雑化する税制度に対応できるよう、協議会職員への税制度についての講習や、申告受付システムの改修等が必要となっている。			
評価に対する まちづくり 委員会の意見	特になし			
備考				
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大(継続)・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合			

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 住民生活課住民生活係

●事務事業の概要

事務事業名	狂犬病予防事業	事業年度	平成12年度～			
事業目的	狂犬病の発生を予防し、そのまん延を防止し、及びこれを撲滅することにより、公衆衛生の向上及び公共の福祉の増進を図ることを目的とする(狂犬病予防法第1条)。					
事業概要	狂犬病予防法(昭和25年法律第247号)第4条に基づく犬の登録事務					
	同法第5条に基づく狂犬病予防注射に係る事務 注射実績:489頭(H28年度) 集団予防接種の実施(年一回、6月)					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	176,655				176,655	
事業費内訳	需用費:75,438円(犬鑑札等の印刷製本費) 委託料:101,217円(狂犬病予防注射事務委託) 合計 176,655円				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	町民(犬の所有者)	把握方法	直接聴き取り		
	意図・内容	集団巡回予防接種の実施(年1回)により、所有者に対する利便性向上に努めている。				
	意見・反応等					
過去の評価	年度	—	評価点		評価内容	
	過去の評価 に対する分析					
要望の有無	あり・なし	要望内容	集団巡回予防接種の継続			

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	狂犬病の発生を予防し、その蔓延を防止するために必要な事業と考える。	5	
事業効果	5	集団巡回予防接種を実施し、犬の所有者である町民の利便性向上に寄与している。	5	
町が実施することの妥当性	5	自治事務であり、町民の公衆衛生の向上のために必要である。	5	
事業の効率性	4	登録事務の電算化など事業・事務の効率化に努めている。	4	
町民ニーズの把握	4	窓口や集団予防接種会場での聞き取り等随時実施。引き続き集団予防接種を26会場で実施する等、把握したニーズに可能な範囲で対応	4	
合計	23		23	

説明 (現状分析・改善点等)	予防接種は、町外の動物病院を利用する所有者も多く、集団予防接種を利用する所有者と二極化しているが、これを実施しないと接種率が下がるおそれがある。
評価に対する まちづくり 委員会の意見	特になし
備考	
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大 継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり



平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 住民生活課住民生活係

●事務事業の概要

事務事業名	公衆衛生協会補助事業	事業年度	昭和38年度～			
事業目的	公衆衛生の知識を高め、生活環境を整備し、明るく住み良い地域づくりを推進する。					
事業概要	美瑛町公衆衛生協会は、昭和28年設立。役員14名(役員報酬なし)					
	・少年団等に対し集団回収を促進するため、収集量により予算の範囲内で助成金を支給(H28:4.84円/kg) ・環境衛生指導員による町内巡回活動(5月～10月) など					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	1,704,088					1,704,088
事業費内訳	負担金補助及び交付金:1,704,088円(町補助金) H28公衆衛生協会収支決算 ・収入(補助金1,704,088、雑入8、繰越金275) ・支出(会議費4,200、補助金1,685,400(@4.84×348,721kg)、 運営費(研修経費)14,488、次期繰越283)				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	町民(会員ほか)	把握方法	聴き取り、窓口対応		
	意図・内容	助成額の多寡・普及啓発事業の評価など				
	意見・反応等	実績に応じた資源回収事業補助金の定額化(5円/kg)を検討。 ゴミステーションの維持管理の効果的な周知の在り方検討。				
過去の評価	年度	27	評価点	25	評価内容	拡大
	過去の評価 に対する分析	集団回収による回収量が増加傾向にあることから、引き続き、町内会等と協働して取り組んでいくことが求められる。				
要望の有無	あり・なし	要望内容	実績に応じた資源回収事業補助金の定額化(5円/kg)			

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	集団回収助成は、民間業者による再資源化の推進・行政回収の負担軽減とともに、環境保全・循環型社会構築に向けたリサイクルシステムの確立に寄与している。	5	リサイクル意識の向上、回収経費軽減のため集団回収量の増加を推進し、単価の見直しや住民への周知が必要。
事業効果	5	集団回収助成の実施と合わせて、資源回収ボックスを設置したことにより、効果的な資源回収が図られている。	5	
町が実施することの妥当性	5	環境衛生の普及や環境保全などは行政主導で推進すべきところが多々あるが、住民の意識改革など多様な課題があり、引き続き協会を通じて実施することが妥当と考える。	5	
事業の効率性	5	協会役員、会員が町民ニーズを吸い上げて事業計画等を立案するため、即効性・柔軟性がある。	5	
町民ニーズの把握	5	生活環境は、町民が生活を営む上で常に現状維持・改良を図らなければならない事項のため、町民ニーズに基づく問題発見やその解決方法を検討していく。	5	
合計	25		25	
説明(現状分析・改善点等)	環境に配慮したまちづくりのためには、住民との共有や協働・共創性が求められているので、本協議会による活動の活性化を図っていくことが、その一助につながるものと分析している。			
評価に対するまちづくり委員会の意見	特になし			
備考				
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大(継続)・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合			

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 保健福祉課社会係

●事務事業の概要

事務事業名	福祉ハイヤー借上事業		事業年度	昭和58年度～		
事業目的	町内在住の、一定の要件に該当する身体障がい者及び70歳以上の高齢者で自家用車等交通手段を持たない交通弱者に対し、ハイヤー利用助成券を交付し、通院、買物など日常生活の利便性と経済的負担の軽減を図る。					
事業概要	昭和58年度から下肢、体幹、視覚の障がいにより、1級または2級の身体障害者手帳所持者を対象に実施。1枚あたり500円×30枚(15,000円)を助成。 平成28年度から事業を拡大し、町民税非課税世帯に属する70歳以上の在宅高齢者で、自家用車を所有していない方を対象として追加。1枚あたり500円×20枚(10,000円分)を助成。					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	3,940,000				3,900,000	40,000
事業費内訳	使用料及び賃借料:3,940,000円 (高齢者3,691,000円、障がい者249,000円)				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	在宅高齢者、障がい者	把握方法	アンケート、聞き取り
	意図・内容	現状の効果、今後の効果的活用の意見把握		
	意見・反応等	通院、買物での利用が多く、特に冬場の移動においては交通弱者に非常に感謝されている。今後も続けてほしいとの要望が多い。		
過去の評価	年度	—	評価点	評価内容
	過去の評価に対する分析			
要望の有無	あり・なし	要望内容	事業の継続	

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	交通手段のない方々への交通対策としてハイヤー券を助成することの必要性は非常に高い。	5	
事業効果	5	交通弱者にとって日常生活の利便性の向上、経済的負担を軽減でき、社会参加への促進を図ることが出来る。	5	より効果的に事業が実施されるよう、対象者の要件について調査、検討が必要。
町が実施することの妥当性	5	町の交通施策として実施することが妥当。	5	
事業の効率性	5	ハイヤー会社と連携し、年間を通じて効果的な運用を図っている。	5	
町民ニーズの把握	5	アンケート、聞き取り、高齢者訪問での意見徴収で確認している。	5	潜在ニーズの掘り起こしのため、周知方法の検討が必要。
合計	25		25	
説明 (現状分析・改善点等)	H28年度から70歳以上の高齢者を対象として拡大し、多くの利用をいただいている。今後、年齢、非課税、世帯状況等の対象要件を時勢状況に応じて再検討することが必要である。			
評価に対するまちづくり委員会の意見	特になし			
備考				
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大 (継続) 見直し・一部見直し・廃止・休止・統合			

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 保健福祉課健康づくり係

●事務事業の概要

事務事業名	がん検診推進事業		事業年度	平成21年度～		
事業目的	女性特有のがんの早期発見・早期治療により、働き盛りであり、妊娠、出産、育児期でもある女性の障害や死亡に至るリスクを可能な限り排除し、生活の質(QOL)の維持増進を目的とする。					
事業概要	特定年齢に達した者に対して、検診手帳と無料クーポンを送付し、子宮がん・乳がんに関する啓発と受診勧奨を実施。					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	1,308,102	123,000				1,185,102
事業費内訳	需用費(印刷製本):240,084円(クーポン券・検診手帳) 役務費(通信運搬費):83,354円(郵送料) 委託料:984,664円(検診委託料) 合計 1,308,102円				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	町民	把握方法	聞き取り		
	意図・内容	事業の継続の必要性				
	意見・反応等	一人に対し5年に1回の無料機会が2クール目となり、事業の周知度が上がっている。				
過去の評価	年度	22	評価点	19	評価内容	
	過去の評価に対する分析					
要望の有無	あり・なし	要望内容	事業の継続			

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	4	検診の必要性についての啓発と、無料の機会があることで受診のきっかけにはなっている。	5	受診率から判断しても受診啓発に重要な事業となっている。
事業効果	4	配付者受診率(乳がん31.3%、子宮がん27.3%)はクーポン以外の受診率(乳がん18%、子宮がん17%)と比較すると高くなることから、受診のきっかけになっている。	5	
町が実施することの妥当性	5	国のがん検診指針に基づき、検診の精度管理と検診台帳の整備による継続的な受診勧奨ができることから妥当性がある	5	
事業の効率性	3	国庫補助制度を活用しているが年々補助率が低くなっている。	3	
町民ニーズの把握	4	毎年未受診者には再勧奨と併せてアンケートを実施している	4	
合計	20		22	
説明(現状分析・改善点等)	無料クーポンによる勧奨の一定の効果はあった。保健センターでの実施日数増加やがんセンターへの送迎等受診しやすい環境づくりを行っているが、更なる受診者増のためがん検診やがん予防の普及啓発のための方策は必要(講演会の実施など)。H30年で5年周期が一区切りであり、今後事業についての検討が必要になる。			
評価に対するまちづくり委員会の意見	「がん患者の減少により医療費が低下する」といった内容も加味すると事業の効率性が見込めると考える。また、1年ずつ均等割で発行する等対象者の幅を広げる方が良好な予防につながる则认为る。			
備考				
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合			

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 保健福祉課子ども支援センター

●事務事業の概要

事務事業名	子育て支援事業	事業年度	平成8年度～			
事業目的	乳児または幼児及びその保護者が、相互に交流出来る場を開設し、子育てについての相談や情報提供等を行う事により、地域の子育て支援機能の充実を図る。					
事業概要	・おもちゃライブラリーでの育児相談や育児講座、リフレッシュ講座を通して、育児不安の軽減を図る。					
	・親子遊びの広場や出前広場等の開催により、遊びの場の提供と地域資源の活用を図る。					
・H28年度実績: ・延べ利用親子 1,804組(4,212人) ・相談件数 13件						
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	3,400,413	2,892,000	508,413			
事業費内訳	報酬:2,143,638円 臨時職員賃金:791,550円 報償費:190,000円 旅費:51,280円 需用費:191,785円 役務費:1,160円 負担金補助及び交付金:31,000円				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	施設利用者(未就園児親子)	把握方法	聞き取り、アンケート		
	意図・内容	各子育て支援事業や施設利用の内容と要望について				
	意見・反応等	様々な事業や講座を通して、子育ての悩みや不安の解消やリフレッシュに繋がっている				
過去の評価	年度	27	評価点	24	評価内容	継続
	過去の評価に対する分析					
要望の有無	あり・なし	要望内容	事業の継続			

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	子育ての悩みを軽減し、保護者の孤立化を防ぐために必要性は高い	5	核家族化が進む中で子育て支援に必要な事業である。
事業効果	5	職員が常駐しているという安心感が、利用しやすさに繋がっている	5	安全確保に努めながら事業の推進を図ること。
町が実施することの妥当性	4	未就園児が減少傾向で、子育て世代の交流の場を意図的に構成する必要がある	5	
事業の効率性	5	センター以外での事業も展開し、町内の施設も積極的に活用している	5	
町民ニーズの把握	5	利用者カードや事業後のアンケートを通してニーズの把握に努めている	5	
合計	24		25	
説明(現状分析・改善点等)	0～2歳児の就園率の向上に伴い、より一層年齢の低い親子向けの事業展開が必要になって来ると思われる。			
評価に対するまちづくり委員会の意見	特になし			
備考				
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合			

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 経済文化振興課移住定住推進係

●事務事業の概要

事務事業名	セカンドホームツーリズム事業		事業年度	平成22年度～		
事業目的	本町におけるセカンドホームツーリズムのニーズの把握と住民による新たな産業(住宅関連、サービス業など)の可能性を考えるきっかけとなることで地域経済の活性化を図る目的で事業運営してきたが、時代の変遷から、地方創生の柱である移住・定住対策として定住を体験・検討する方へ利用いただき、交流人口と定住人口の増加を図り、地域経済の活性化を図る。					
事業概要	美瑛町らしい田園住宅と新しいライフスタイル「暮らし(住・食・医・遊)の自給」をしていくためのモデルハウスであり、実際に住んでいただき、美瑛へ移住・定住に向けて検討をしてもらうためのお試し住宅である。(現在、水沢体験住宅6棟管理運営)					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	2,079,312				2,079,312	
事業費内訳	需用費(消耗品費、光熱水費、修繕料):903,883円 役務費(通信運搬費、手数料):377,524円 委託料(業務委託):797,905円 合計 2,079,312円				備考	歳入(使用料) 2,183,000円 歳入(雑入) 358,219円

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	町外の移住検討者・移住体験者(施設利用者)		把握方法	聞き取り(アンケート)	
	意図・内容	美瑛町にセカンドホームを所有される前に一度体験される方への住宅				
	意見・反応等	利用者から高く評価いただいております、住宅を購入された実績がある。(平成28年度利用者実績:28件64人)				
過去の評価	年度	27	評価点	20	評価内容	継続
	過去の評価に対する分析		利用申込にあたっては、申込理由を明記し、申込者本人に聞き取りを行い、移住・二地域居住に対し意欲があるかの判断を行い許可の判断をしている。			
要望の有無	なし		要望内容			

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	美瑛町の四季を体験してもらうことで、移住定住へつながっていく。	5	
事業効果	4	移住に結びついた事例もあり、効果が現れている。	4	
町が実施することの妥当性	5	自治体行政が実施することで効率的なサービスの提供が図れる。	5	
事業の効率性	5	美瑛町に移住・二地域居住を決意されるきっかけを提供し将来性を確立する。	5	
町民ニーズの把握	4	利用者アンケート・聞き取りなどでニーズにあった事業を展開する。	4	
合計	23		23	
説明(現状分析・改善点等)	年々冬期間の利用が増加している。目的外利用(観光などの拠点)の申込みが増加しており、移住・二地域居住に意欲を持たれている方のみを受け入れている。北海道移住促進連携協議会主催の「北海道暮らしフェア(東京・名古屋・大阪)」に出展し、移住・定住・二地域居住などのPRを行っている。また、美瑛町空き家情報バンクを用いて移住・定住情報を発信している。			
評価に対するまちづくり委員会の意見	特になし			
備考				
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合			

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成29年度(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 経済文化振興課

●事務事業の概要

事務事業名	中心市街地案内サイン整備事業		事業年度	平成27年度～		
事業目的	美瑛町を訪れる観光客に対して、また町民の利便性を考慮して、目的地への誘導を促すとともに、統一したサインを整備することで都市景観の向上を図り、まちの魅力アップを図る。					
事業概要	H28: 公共施設案内サイン 1基(本通り、bi.yell看板)、矢羽サイン19枚 市街地案内サイン4基(駅前2、道の駅、フリーロード北町側)					
	[参考]H27: 市街地案内サイン1基(郷土資料館前)、誘導サイン1基(役場西側駐車場)					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	12,560,400	4,467,420			8,000,000	92,980
事業費内訳	工事請負費:12,560,400円				備考	特定財源:基金

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	町外者	把握方法	聞き取り
	意図・内容	看板を整備することで、観光客等が町内を移動する際の目的地までの一助となる。		
	意見・反応等	JR駅・道の駅等の市街地案内を確認し、矢羽サインやロードマップで市街地を巡っている。		
過去の評価	年度	—	評価点	評価内容
	過去の評価に対する分析			
要望の有無	あり・なし	要望内容	関係機関からの要望	

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	看板の整備は、国内外からの観光客の周遊に重要である。	5	
事業効果	4	移動中の不安や迷いが少なくなる。	4	
町が実施することの妥当性	5	自治体の実施することにより、正確なサービスが提供できる。	5	
事業の効率性	5	有効な補助金を活用し、事業の推進を図っている。	5	
町民ニーズの把握	4	看板の設置場所や内容について、町内観光関係者からの意見や要望を聞いて実施している。	4	
合計	23		23	

説明 (現状分析・改善点等)	主要箇所に総合案内、公共施設案内の統一看板を設置し、市街地の誘導がわかりやすくなった。今後は施設の設置や移転などに対応することが重要。今後、多言語表記も検討。
評価に対するまちづくり委員会の意見	特になし
備考	
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・ <u>継続</u> ・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 経済文化振興課文化スポーツ推進室

●事務事業の概要

事務事業名	人づくり育成事業(少年少女道外研修)		事業年度	平成2 年度～		
事業目的	活力と魅力に満ちたまちづくりを推進するための人材育成					
事業概要	少年少女道外研修 道外でのさまざまな社会体験を通じ、児童生徒の将来に向けた意識の高揚を図るとともに団体活動を通しての連帯感、責任感等を養う機会とすることを目的に実施。					
	H28.7.29～8.1 群馬県、石川県、福井県、愛知県 小学生14名 中学生19名 応募数33名					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	4,675,216				4,355,188	320,028
事業費内訳	旅費(職員旅費等):374,557円 負担金補助及び交付金:3,980,659円 合計 4,675,216円 ※参加者自己負担320,000円				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	研修参加者		把握方法	研修報告の作成・感想文の提出	
	意図・内容	①研修で学んだことの再確認②「考える」「話し合う」「発表する」といった、子どもたちの育成につながる機会の提供。				
	意見・反応等	「この経験を今後の生活に活かしていきたい」という意見が多い。また、保護者からも「自己管理ができるようになった」などの感想が多く寄せられている。				
過去の評価	年度	27	評価点	24	評価内容	継続
	過去の評価に対する分析		道外研修事業の内容は十分理解されている			
要望の有無	あり	なし	要望内容	事業の継続実施要望が強い		

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価	
事業の必要性	5	町外の文化に触れ、教養を養い、豊かな心を養う人づくりのために必要である。	5		
事業効果	5	年齢や学校が違う子どもたちが団体生活を通して、協調性・責任感・自発性を養い成長のきっかけになっている。	5		
町が実施することの妥当性	5	さまざまな家庭環境にある児童生徒が公平に参加できる事業である。	5		
事業の効率性	5	複数業者から事業の目的に沿っている行程を提案しているものを選定しており、効率性は高い。	5		
町民ニーズの把握	5	実施後のアンケートや社会の動向等により、ニーズの把握に努めている。	5		
合計	25		25		
説明(現状分析・改善点等)	継続実施要望が高く、児童生徒数が減ってきているなかでも、参加者は多く美瑛町の将来を担う人づくりに寄与している。				
評価に対するまちづくり委員会の意見	特になし				
備考					
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 農林課農業振興係

●事務事業の概要

事務事業名	米生産安定支援対策事業		事業年度	平成27年度～		
事業目的	これまで「美瑛米」へのブランド対策や、米の高品質化対策のための支援を行ってきたが、米価の下落や国の直接支払交付金が半減、平成30年度からは廃止されるなど、米生産にとって厳しい状況であるため、米生産安定に向けた対策として米生産農家に対し支援を行う。					
事業概要	主食用米作付面積10aあたり2,500円に1等米の出荷割合を乗じた額を農業者へ支援。					
	予算額:2,500円/10a×1,000ha(作付面積)×100%(1等米出荷割合)=25,000千円 申請件数124件 対象農地面積819.9ha 全量1等米					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	20,481,574			19,400,000		1,081,574
事業費内訳	負担金補助及び交付金:20,481,574円				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	対象農業者	把握方法	聞き取り		
	意図・内容	米生産農家に対し、安定生産に向けた支援を行った。				
	意見・反応等	美瑛米を生産する農家への営農支援として、一定の評価を得ている。				
過去の評価	年度	—	評価点	—	評価内容	
	過去の評価に対する分析					
要望の有無	あり・なし	要望内容	生産者団体等からの高品質米生産への支援要望			

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	国の制度改正に伴い、町内で100件を超える米農家に対する支援は必要である。	5	
事業効果	5	農家個人への直接支援とすることで、事業効果をより発揮することができる。	5	
町が実施することの妥当性	4	周辺自治体では単独の支援を行っておらず、「美瑛米」に対する独自支援と言える。	4	
事業の効率性	4	農協と連携を図り、滞りなく申請・受付け事務を実施している。	4	
町民ニーズの把握	4	対象農業者の聞き取り	4	
合計	22		22	

説明 (現状分析・改善点等)	平成30年産米より国の直接支払交付金や生産数量目標の配分が廃止となる。町単独支援については、米の需給及び価格の動向を見極めたうえで今後の方策の検討が必要である。
評価に対するまちづくり委員会の意見	特になし
備考	
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大 継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり



平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 農林課畜産係

●事務事業の概要

事務事業名	家畜自衛防疫補助事業		事業年度	昭和56年度～		
事業目的	家畜伝染病を組織的及び計画的に防疫し、畜産経営の安定に寄与する。					
事業概要	家畜飼養者、関係団体で構成する美瑛町家畜自衛防疫組合に対し、防疫資材(石灰)の全戸配布や牛・豚などへの予防接種、豚サーコウィルス疾病対策、PED防疫対策への助成事業、家畜防疫に関わる広報活動などに対し補助する。					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	800,000				421,408	378,592
事業費内訳	負担金補助及び交付金:800,000円 H28家畜自衛防疫組合決算(千円) ・収入(予防手数料9,475、補助金(JA541、美瑛町800、共済組合44)、雑入346、繰越金268) ・支出(予防対策費(衛指協3,399、ワクチン助成804、ワクチン代5,500、消石灰305、防疫資材14)、獣医師補助員619、運営費35) 次期繰越799				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	畜産農家	把握方法	聞き取り		
	意図・内容	町内の家畜における安定生産と、家畜の感染症を防ぎ発生時の蔓延に対する予防対策。				
	意見・反応等	家畜伝染病の発生及び安定生産が図られている。				
過去の評価	年度	—	評価点	—	評価内容	
	過去の評価に対する分析					
要望の有無	あり・なし	要望内容	家畜防疫関係団体からの要望が多い。			

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	防疫に関わる各種事業を行うことが、農家の所得安定や家畜自体の育成にも必須と考えられる。	5	
事業効果	4	過去のヨーネ病(牛)、PED(豚)などの病気発生以降、農家の努力もあり病気の発生・蔓延がない。	4	
町が実施することの妥当性	5	町内全家畜飼養者が家畜自衛防疫に取り組めるよう、町内関係団体の連携のもと、当該組合の事業支援を行うことは公益性が高い。	5	
事業の効率性	4	町内関係団体との連携のもと、事業実施や様々な情報共有などが迅速に行われている。	4	
町民ニーズの把握	5	外国人観光客増加に伴い、牛舎などへの無断立入が増加し、海外からの疫病を危惧する声などが聞き取ることが出来、当該組合への防疫全体におけるニーズは高い	5	
合計	23		23	
説明(現状分析・改善点等)	近隣諸国で家畜伝染病が発生しており、海外からの観光客の増加とともに、旅行者が採草地や牧場敷地内に立ち入ることが見受けられ、外部から家畜伝染病が持ち込まれることが懸念されている。海外からの渡航者向けへの注意喚起の必要性を重視し、家畜伝染病予防への啓もうに力を入れつつ、従前からの取り組みを継続・強化していく。			
評価に対するまちづくり委員会の意見	特になし			
備考				
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大(継続)・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合			

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 農林課林務係

●事務事業の概要

事務事業名	林産業担い手対策補助事業		事業年度	平成17年度～		
事業目的	地域材の利用普及につながるような林産業の振興に寄与し、将来の林産業の担い手を育成することを目的とする。					
事業概要	「てっぽう虫の会」が主催する町民を対象とした美瑛産カラマツ材を使ったガーデンテーブル、プランターやフラワーラック等を製作する事業等に対し、補助する。					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	200,000					200,000
事業費内訳	負担金補助及び交付金:200,000円(てっぽう虫の会)				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	てっぽう虫の会(会長・事務局)	把握方法	聞き取り		
	意図・内容	地域材を利用した日曜大工を通じて、町民の地域材に対する関心を深められた。				
	意見・反応等	地域材(美瑛産カラマツ)の利用普及の促進につながった。				
過去の評価	年度	—	評価点	—	評価内容	
	過去の評価に対する分析					
要望の有無	あり・なし	要望内容	町内林業関係者で構成された「てっぽう虫の会」からの補助金支援要望			

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	町民の地域材への関心を深めると共に、利用普及に向けた支援は必要である。	5	
事業効果	5	町民が木に触れ温もりを感じることで、事業効果をより発揮することができる。	5	
町が実施することの妥当性	5	将来の林産業の担い手育成の主体者であるてっぽう虫の会への独自支援である。	5	
事業の効率性	4	町内林業関係者や商工会と連携を図りながら事業を実施している。	4	
町民ニーズの把握	4	てっぽう虫の会(会長・事務局)の聞き取り	4	参加ニーズも多い事業なので、幅広く参加してもらえるよう効果的な事業の展開の検討が必要。
合計	23		23	

説明(現状分析・改善点等) 事業の参加者アンケート分析を図り、ニーズを把握しつつ、地域材の新たな利活用方法の検討や将来の担い手対策として森林資源の関心向上に努めている。

評価に対するまちづくり委員会の意見 特になし

備考

総合評価 ※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 建設水道課管理係

●事務事業の概要

事務事業名	街路灯管理事業	事業年度	昭和49年度～			
事業目的	公設街路灯の維持管理と町内会管理の街路灯に係る費用の補助					
事業概要	・公設街路灯の維持補修、電気料					
	・町内会管理の街路灯電気料の補助(電気料の1/3補助)					
	・町内会管理の新設街路灯及びLED灯への変更の設置費用補助(費用の1/2補助)					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	15,375,972					15,375,972
事業費内訳	需用費:11,219,881円 負担金補助及び交付金:4,156,091円 (電気料補助 2,080,927円、設置補助 2,075,164円) 合計 15,375,972円				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	町内会・行政区	把握方法	街路灯設置等計画を照会		
	意図・内容	予算年度の前年度に設置計画を照会し把握。補助費を算定し予算編成時に反映させている。				
	意見・反応等					
過去の評価	年度	—	評価点	—	評価内容	
	過去の評価に対する分析					
要望の有無	あり・なし	要望内容	事業の継続			

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価	
事業の必要性	5	安全・安心なまちづくりを推進するため	5		
事業効果	5	町内会・行政区の費用負担軽減	5		
町が実施することの妥当性	5	公共性の高い事業への助成	5		
事業の効率性	4	費用の1/2は町内会等が負担することで、無駄な箇所に乱立することはなく、安全安心なまちづくりを推進するために効率的である。	4		
町民ニーズの把握	5	予算編成時に街路灯設置計画の有無を町内会・行政区に照会し、その補助金相当分を予算に反映させている。	5		
合計	24		24		
説明(現状分析・改善点等)	平成25年度からLED灯への切り替え費用を補助している。補助率が1/3だったが、平成27年度から補助率を1/2に変更により申請数が増加している。電気料もLED灯に変更に伴い減額している。今後も町内会等へ周知していきたい。				
評価に対するまちづくり委員会の意見	特になし				
備考					
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大(継続)・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 建設水道課建築係

●事務事業の概要

事務事業名	住宅太陽光発電システム設置整備助成事業	事業年度	平成25年度～			
事業目的	クリーンエネルギーの活用を積極的に行い、地球規模の環境問題に配慮した生活と美瑛町の美しい景観や環境にやさしいまちづくりを推進する。					
事業概要	太陽光発電システムを構成する太陽電池モジュールの公称最大出力(kw表示とし、小数点以下第3位を四捨五入)に1kw当り7万円を乗じた額(千円未満切捨て)で、21万円を上限とした額を助成する。(H25:8件、H26:10件、H27:2件、H28:3件)					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	630,000					630,000
事業費内訳	負担金補助及び交付金:630,000円				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	町民等	把握方法	聞き取り(問合せの電話等)		
	意図・内容	事業内容について				
	意見・反応等	特に無し				
過去の評価	年度	28	評価点	23	評価内容	継続
	過去の評価に対する分析		自然エネルギーの有効活用に対する国民の関心は依然高いものの、国直轄補助の廃止、並びに買い取り価格下がっていることなどの要因により利用件数が減ったものとする。			
要望の有無	あり・なし	要望内容	事業の継続			

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	4	助成開始当初から比べると利用者が減ってきているため、今後の利用状況を観察する必要がある。	4	国による設置補助がなくなり、また売電価格も下がってきていることからニーズは少なくなってきているものの、環境保全の観点から必要な事業である。
事業効果	5	自然エネルギーの有効活用に対する理解と、節電意識の向上が図られていると感じられる。	5	
町が実施することの妥当性	5	国の直接補助が無くなってしまったことから、町が助成する意義は高いと思われる。	5	
事業の効率性	5	町で直接対応していることから特に支障は無いと考える。	5	
町民ニーズの把握	4	潜在的需要が落ち着いてきたと考えられるが、引き続きニーズの把握に努めたい。	4	
合計	23		23	

説明(現状分析・改善点等) 助成開始から3年以上経過し、利用者も減ってきているが、一定数の需要は依然としてあることから関心が無くなったわけではないと考える。今後もPR等に工夫をしつつ利用状況を観察していきたい。

評価に対するまちづくり委員会の意見 特になし

備考

総合評価 ※担当課では記入しないこと 拡大(継続)・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 教育委員会管理課

●事務事業の概要

事務事業名	小学生学習ルーム事業	事業年度	平成24年度～			
事業目的	本町児童の学習意欲の向上・学習習慣の定着・基礎学力の向上を図る。					
事業概要	小学生3～6年生を対象とした学習ルームを長期休業中(夏季・冬季)にそれぞれ3日間開設。国語、算数、英語のふりかえり学習を実施し学習の定着化を図る。講師は、小学校の教育助手やALTを活用。 参加児童数:夏季休業中 延98人 / 冬季休業中 延91人					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	2,349					2,349
事業費内訳	需用費(消耗品費):2,349円 ※人件費は他事業で支出				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	学習ルーム参加児童	把握方法	アンケート		
	意図・内容	今後の本事業運営方法の検討				
	意見・反応等					
過去の評価	年度	27	評価点	23	評価内容	継続
	過去の評価に対する分析		継続した取り組みが、学習の習慣づけに繋がりがり学力の底辺の底上げにもなっている。			
要望の有無	あり・なし	要望内容	継続した取り組みをしてほしい。			

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	児童の学習意欲向上、学習の習慣付けを学校と一体となり、推進していくことが必要と考える。	5	
事業効果	4	児童の学習に対する姿勢の変化が見受けられる。	4	
町が実施することの妥当性	4	異校交流の一面もあることから、町教委で実施することが妥当。	4	
事業の効率性	5	講師を町雇用の教育助手やALTを活用することで、効率的に事業を実施できる。	5	
町民ニーズの把握	5	事業実施後の参加児童への聞き取りにより、ニーズを把握。	5	開催日程の検討を行う等参加しやすい環境づくりに努めること。
合計	23		23	

説明 (現状分析・改善点等)	引き続き学校を通して事業周知をし、事業の継続をしたい。			
評価に対するまちづくり委員会の意見	特になし			
備考				
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合			

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成 29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 教育委員会管理課

●事務事業の概要

事務事業名	土曜学習事業	事業年度	平成27年度～			
事業目的	子どもたちの望ましい生活習慣の定着や教育力の向上のため、地域の多様な経験や技能を持つ人材を活用し、様々な学習支援活動や体験活動などの学習機会を提供する。					
事業概要	「算数たんけんたい:参加者33名」、「こよりの観察会:参加者24名」、「英語キャンプ:参加者32名」、「おりがみにちょうせん:参加者15名」、「漢字を楽しもう:参加者9名」の5事業を実施					
事業決算額	総事業費	国庫支出金	道支出金	地方債	その他特定財源	一般財源
	131,384	65,000			11,300	55,084
事業費内訳	報償費:115,633円 旅費:5,840円 需用費(消耗品費):9,911円 合計 131,384円				備考	

●事務事業の目標・成果等

成果・実績	対象者(誰に)	参加児童	把握方法	感想発表		
	意図・内容	有意義な休日を過ごしてもらう。				
	意見・反応等	「楽しかった」「また、参加したい」など好評の声が多かった。				
過去の評価	年度	27	評価点	23	評価内容	継続
	過去の評価に対する分析					
要望の有無	あり・なし	要望内容	事業の継続			

●評価

評価項目	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	休日を有意義に過ごせていない子どもたちに対する学習機会の提供と望ましい生活習慣の定着を図る。	5	
事業効果	4	公民館、図書館事業と連携し、休日の過ごし方支援を実施。	4	社会教育主催の事業と日程が重ならないよう連携し効果的な事業実施が必要。
町が実施することの妥当性	5	小中学生健全な育成のため、学習の場を提供、支援することは必要。	5	
事業の効率性	4	補助金を活用しながら、専門の講師を招聘し実施している。	4	
町民ニーズの把握	5	事業実施後の参加児童への聞き取りにより、ニーズを把握。	5	
合計	23		23	
説明(現状分析・改善点等)	休日において、有意義な過ごし方ができていない児童がいる中、土曜日に事業を設けることで、少しでも子どもたちに外出するきっかけづくりになればと考える。事業によっては、少人数のものもあったので、内容の見直しをしながら、事業の継続をしていきたい。			
評価に対するまちづくり委員会の意見	特になし			
備考				
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大 (継続) 見直し・一部見直し・廃止・休止・統合			

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 総務課総務係

(公共事業評価用)

事業名	十勝岳望岳台防災施設整備事業						
事業年度	H27年度 ~ H28年度		事業実施場所	美瑛町字白金			
事業目的	望岳台は十勝岳火口から3kmと近く、多くの登山者や観光客が訪れる場所のため、突発的な噴火からの噴石による被災リスク低減を図る緊急退避施設として整備。通常時は火山活動の情報発信及び入山届の記入等の他に登山情報や学習の知識普及の場として活用。						
事業費の状況			全体事業費	前年度まで	当該年度	翌年度以降	備考
	事業費		396,549 千円	308,090 千円	88,884 千円	千円	
	財源内訳	国・道支出金	162,701 千円	157,701 千円	5,500 千円	千円	
		地方債	194,900 千円	135,300 千円	59,600 千円	千円	
		その他特定財源	千円	千円	20,043 千円	千円	
		一般財源	38,948 千円	15,089 千円	3,741 千円	千円	
進捗率		100%	%	%	%		
事業内容			鉄筋コンクリート	1棟			
			旧レストハウス解体	1棟			
			災害用備品整備	一式			
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費 千円÷延長 m = 千円					
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費 396,549千円÷面積 368.38㎡ = 1,076千円					
事業コストが高くなる理由	噴石から避難者を防護する為、国で定める耐震安全性目標の最高水準の構造としたことによる。						

●評価

評価内容	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	十勝岳の噴火に際し、人々の生命を守る為に必要	5	
事業効果	5	御嶽山の噴火を踏まえ、退避壕の整備が国においても示されており、事業効果は高い。	5	
社会情勢等変化への対応	5	平常時には火山活動の情報発信及び入山届の記入や火山防災の学習の場として活用する等、社会情勢等の変化に対応している	5	
事業の効率性	4	備品等の整備には「地域づくり総合交付金」を活用した。	4	
町民ニーズの把握	3	利用者の内、町民と町外者の把握が困難	3	
合計	22		22	

改善を要する内容

備考

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 住民生活課町営住宅係

(公共事業評価用)

事業名	北町団地2号棟建設事業					
事業年度	H26年度～H34年度(北町団地)	事業実施場所	美瑛町北町1丁目			
事業目的	美瑛町住生活基本計画に基づき、用途廃止及び建替団地等からの移転先として計画的に建設を行い、快適で安心安全な住宅の供給を図る。					
事業費の状況		全体事業費	前年度まで	当該年度	翌年度以降	備考
		事業費(北町団地全体)	971,345 千円	251,426 千円	98,846 千円	621,073 千円
	財源内訳	国・道支出金	433,979 千円	122,535 千円	47,656 千円	263,788 千円
		地方債	千円	千円	千円	千円
		その他特定財源	千円	千円	千円	千円
		一般財源	537,367 千円	128,891 千円	51,190 千円	357,285 千円
	進捗率	100%	25.9 %	36.1 %	100 %	
事業内容	6棟32戸 (1号棟:1棟8戸鉄筋コンクリート造、2号棟以降:1棟4戸×6棟木造) 団地の駐車場及び外構を整備	L= W=		北町団地2-1号棟 木造2階建て 建築面積 共同住宅棟173.18㎡、物置棟12.96㎡		
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費 千円÷延長 m = 千円				
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費 98,846 千円÷面積 186.14㎡ = 531千円				
事業コストが高くなる理由						

●評価

評価内容	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価	
事業の必要性	5	郊外の団地(憩町団地)からの住み替え・まちなか居住を推進する。	5		
事業効果	4	移転を進め、憩町団地は全戸空き家になった住棟を随時解体	4		
社会情勢等変化への対応	5	だれもが暮らしやすいユニバーサルデザインに対応した住宅を整備	5		
事業の効率性	5	補助金(交付金)の活用	5		
町民ニーズの把握	5	移転対象者への説明・間取りの希望調査	5		
合計	24		24		
改善を要する内容	本住宅の施工にあたっては、建築主体と外構整備の発注年度に分かれている。駐車場の利用の観点からも、建築本体と外構を一体的に施工することが入居者にとって利益がある。				
備考					

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり



平成29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 建設水道課

(公共事業評価用)

事業名	町道 朗根内上俵真布線道路改良舗装工事						
事業年度	H24年度 ~ H35年度		事業実施場所	美瑛町			
事業目的	道々天人峡美瑛線を起点とし「横牛・朗根内・俵真布」地区と美瑛町市街地を結ぶ幹線道路で、大型農業機械や建設車両のほか、国道237号から天人峡温泉等へのアクセス路として交通量が多い路線ですが、道路概況は凍上による舗装の亀裂や路肩が下がるなど損傷が著しく、一年を通じ安全で円滑な交通を確保し地域の活性化に資するもの。						
事業費の状況			全体事業費	前年度まで	当該年度	翌年度以降	備考
	事業費		840,675 千円	415,451 千円	39,107 千円	386,117 千円	
	財源内訳	国・道支出金	477,225 千円	201,157 千円	23,400 千円	252,668 千円	
		地方債	342,600 千円	200,800 千円	14,900 千円	126,900 千円	
		その他特定財源	千円	千円	千円	千円	
		一般財源	20,850 千円	13,494 千円	807 千円	6,549 千円	
進捗率			49.42 %	54.07 %	%		
事業内容			L= 6,240m W= 5.5m	改良L=1,900m 舗装L=1,900m	改良L=620m 舗装L=620m (暫定施工)	改良L=3,720m 舗装L=3,720m	
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費 840,675千円÷延長6,240m =135千円					
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費 千円÷面積 ㎡ = 千円					
事業コストが高くなる理由							

●評価

評価内容	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	地域と市街地を結ぶ幹線道路で、舗装の亀裂や路肩損傷が著しく、交通の支障となっているため、改良事業が必要	5	
事業効果	5	改良により、冬季路肩の確保と夏季の人と自転車の安全が確保される。	5	
社会情勢等変化への対応	5	農業経営の規模拡大や道々を起点とする建設機械など大型車両の通行に加えて通学路線指定を受け、安全性がより求められる。	5	
事業の効率性	4	道路構造令や将来の交通状況を考慮した道路構造で実施。事業は国庫補助制度や起債制度を活用。事業期間は農業関係排水事業と連携した事業期間設定で実施。	4	
町民ニーズの把握	5	「横牛・朗根内・俵真布」地区要望のほか地域住民からの聞き取り。	5	
合計	24		24	
改善を要する内容				
備考				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 建設水道課

(公共事業評価用)

事業名	町道 美沢17線道路改良舗装工事						
事業年度	H24年度 ~ H30年度		事業実施場所	美瑛町			
事業目的	町道美沢17線は、道道十勝岳温泉美瑛線に接続し、美沢共立地区と市街地を結ぶ路線である。 美沢共立地区は、十勝岳噴火時の緊急避難区域に指定されており、本地域の町道については、 避難路として整備が必要な重要路線に位置付けられているが、現道は未改良のため路体が損傷 している。緊急避難路を整備し、自然災害に強い安心安全な地域の確立に資するものである。						
事業費の状況			全体事業費	前年度まで	当該年度	翌年度以降	備考
	事業費		336,923 千円	163,923 千円	71,874 千円	101,126 千円	
	財源内訳	国・道支出金	181,963 千円	83,813 千円	33,150 千円	65,000 千円	
		地方債	147,608 千円	76,500 千円	36,718 千円	34,390 千円	
		その他特定財源	千円	千円	千円	千円	
		一般財源	7,352 千円	3,610 千円	2,006 千円	1,736 千円	
進捗率			48.65 %	69.99 %	%		
事業内容		L= 1,703m W= 4.0m	改良L=862m 舗装L=862m	改良L=601m 舗装L=361m	改良L=240m 舗装L=480m		
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費 336,923千円÷延長1,703m =199千円					
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費 千円÷面積 ㎡ = 千円					
事業コストが高くなる理由							

●評価

評価内容	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	十勝岳噴火時の避難道路に指定されているが、未改良の砂利道であるため、路肩損傷が著しく、安定性もないため、改良が必要。	5	
事業効果	5	改良により、路肩の確保と、舗装道路となることで安定した走行性が確保できる。	5	
社会情勢等変化への対応	5	十勝岳噴火時の緊急避難区域に指定された地域と幹線道路をつなぐ町道であり、常に安定した走行性を確保することが求められている。	5	
事業の効率性	4	道路構造令や将来の交通状況を考慮した道路構造で実施。事業は国庫補助制度や起債制度を活用。	4	
町民ニーズの把握	5	地域要望のほか、地域住民からの聞き取り、対象地域は十勝岳噴火時の緊急避難区域。	5	
合計	24		24	
改善を要する内容				
備考				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 建設水道課

(公共事業評価用)

事業名	町道 北瑛旭第6線道路改良舗装工事						
事業年度	H23年度 ~ H32年度		事業実施場所	美瑛町			
事業目的	町道旭第6線は同地区と国道452号線を連絡する重要な路線で、美瑛町を代表する観光スポットや季節の彩りなど観光名所を巡るルートとして多くの観光客が訪れる路線であるが道路が狭隘で交通に支障となっているため、改良工事を実施し安全で円滑な交通確保を図り、地域の活性化に資するもの。						
事業費の状況			全体事業費	前年度まで	当該年度	翌年度以降	備考
	事業費		650,566 千円	371,269 千円	61,613 千円	217,684 千円	
	財源内訳	国・道支出金	357,464 千円	174,814 千円	43,343 千円	139,307 千円	
		地方債	277,300 千円	186,200 千円	17,356 千円	73,744 千円	
		その他特定財源	千円	千円	千円	千円	
		一般財源	15,802 千円	10,255 千円	914 千円	4,633 千円	
進捗率			57.07 %	66.54 %	%		
事業内容		L= 2,600m W= 5.5m	改良L=1,600m 舗装L=1,600m	改良L=300m 舗装L=300m	改良L=700m 舗装L=700m		
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費 650,566千円÷延長2,600m =250千円					
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費 千円÷面積 ㎡ = 千円					
事業コストが高くなる理由							

●評価

評価内容	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	本町を代表する観光エリアで国道452にアクセスする幹線道路であるが、道路狭隘で交通の支障となっているため、改良が必要。	5	
事業効果	5	改良により5.5mの幅員が確保でき安全で円滑な交通が確保できる。	5	
社会情勢等変化への対応	5	農業法人化による農業機械の大型化と本町を代表する観光地を巡る大型バスをはじめ、観光客滞在により生じている渋滞対策が求められている。	5	
事業の効率性	4	道路構造令や将来の交通状況を考慮した道路構造で実施。事業は国庫補助制度や起債制度を活用。	4	
町民ニーズの把握	4	地域要望のほか、地域住民からの聞き取り	4	
合計	23		23	
改善を要する内容				
備考				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 建設水道課

(公共事業評価用)

事業名	町道 美園村山線道路改良舗装工事					
事業年度	H23年度 ~ H32年度		事業実施場所	美瑛町		
事業目的	町道美園村山線は同地区と道々美馬牛神楽線を結ぶ幹線道路で、農産物の集出荷や観光名所を巡るルートとして、多くの観光客が訪れる路線であるが、未改良で狭隘であるため交通の支障となっていることから、改良を実施し一年を通じ安全で円滑な交通を確保し地域の活性化に資するもの。					
事業費の状況	全体事業費		前年度まで	当該年度	翌年度以降	備考
	事業費		623,504 千円	272,817 千円	30,295 千円	320,392 千円
	財源内訳	国・道支出金	371,136 千円	161,136 千円	22,421 千円	187,579 千円
		地方債	239,400 千円	105,900 千円	7,480 千円	126,020 千円
		その他特定財源	千円	千円	千円	千円
		一般財源	12,968 千円	5,781 千円	394 千円	6,793 千円
進捗率			43.76 %	48.61 %	%	
事業内容		L= 1,022m W= 5.5m 橋梁2基	改良L=500m 舗装L=340m 橋梁1基	改良L=200m 舗装L=360m	改良L=322m 舗装L=322m 橋梁1基	
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費 623,504千円÷延長1,022m =610千円				
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費 千円÷面積 ㎡ = 千円				
事業コストが高くなる理由						

●評価

評価内容	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	農産物の集出荷や観光需要の増加による交通量が多く、安全確保のため、未改良路線の改良が必要	5	
事業効果	5	改良により5.5mの幅員が確保でき安全で円滑な交通が確保できる。	5	
社会情勢等変化への対応	5	農業経営の規模拡大や道々を起点とする建設機械など大型車両の通行に加えて通学路線指定を受け、安全性がより求められる。	5	
事業の効率性	4	道路構造令や将来の交通状況を考慮した道路構造で実施。事業は国庫補助制度や起債制度を活用。	4	
町民ニーズの把握	5	地域要望のほか、地域住民からの聞き取り	5	
合計	24		24	
改善を要する内容				
備考				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 建設水道課

(公共事業評価用)

事業名	町道 旭千代ヶ丘線道路改良舗装工事						
事業年度	H28年度 ~ H35年度		事業実施場所	美瑛町			
事業目的	町道旭千代ヶ丘線は旭、北瑛地区と国道237号線を連絡する重要な路線で、美瑛町を代表する丘陵写真スポットや季節の彩りなど観光名所を巡るルートとして多くの観光客が訪れる路線であるが、道路が狭隘で交通に支障となっているため、改良工事を実施し安全で円滑な交通確保を図り、地域の活性化に資するもの。						
事業費の状況			全体事業費	前年度まで	当該年度	翌年度以降	備考
	事業費		135,000 千円	0 千円	9,990 千円	125,010 千円	
	財源内訳	国・道支出金	79,112 千円	千円	千円	79,112 千円	
		地方債	53,094 千円	千円	9,400 千円	43,694 千円	
		その他特定財源	千円	千円	千円	千円	
		一般財源	2,794 千円	千円	590 千円	2,204 千円	
進捗率			0 %	7.40 %	%		
事業内容			L= 600m W= 5.5m	実施設計	改良L=600m 舗装L=600m 用地測量		
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費 135,000千円÷延長600m =225千円					
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費 千円÷面積 ㎡ = 千円					
事業コストが高くなる理由							

●評価

評価内容	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	本町を代表する観光エリアで国道237にアクセスする幹線道路であるが、道路狭隘で交通の支障となっているため、改良が必要。	5	
事業効果	5	改良により5.5mの幅員が確保でき安全で円滑な交通が確保できる。	5	
社会情勢等変化への対応	5	農業法人化による農業機械の大型化と本町を代表する観光地を巡る大型バスをはじめ、観光客滞在により生じている渋滞対策が求められている。	5	
事業の効率性	4	道路構造令や将来の交通状況を考慮した道路構造で実施。事業は国庫補助制度や起債制度を活用。	4	
町民ニーズの把握	5	地域要望のほか、地域住民からの聞き取り	5	
合計	24		24	
改善を要する内容				
備考				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 建設水道課

(公共事業評価用)

事業名	町道 旭美瑛線道路改良舗装工事						
事業年度	H27年度 ~ H33年度		事業実施場所	美瑛町			
事業目的	町道旭美瑛線は同地区と国道452号線を連絡する重要な路線で、美瑛町を代表する観光スポットや季節の彩りなど観光名所を巡るルートとして多くの観光客が訪れる路線であるが道路が狭隘で交通に支障となっているため、改良工事を実施し安全で円滑な交通確保を図り、地域の活性化に資するもの。						
事業費の状況			全体事業費	前年度まで	当該年度	翌年度以降	備考
	事業費		351,000 千円	19,008 千円	24,948 千円	307,044 千円	
	財源内訳	国・道支出金	202,794 千円	千円	千円	202,794 千円	
		地方債	141,830 千円	18,000 千円	23,700 千円	100,130 千円	
		その他特定財源	千円	千円	千円	千円	
		一般財源	6,376 千円	1,008 千円	1,248 千円	4,120 千円	
進捗率			5.42 %	12.52 %	%		
事業内容			L= 1,600m W= 5.5m	実施設計	実施設計	改良L=1,600m 舗装L=1,600m 用地測量	
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費 351,000千円÷延長1,600m =219千円					
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費 千円÷面積 ㎡ = 千円					
事業コストが高くなる理由							

●評価

評価内容	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	本町を代表する観光エリアで国道452にアクセスする幹線道路であるが、道路狭隘で交通の支障となっているため、改良が必要。	5	
事業効果	5	改良により5.5mの幅員が確保でき安全で円滑な交通が確保できる。	5	
社会情勢等変化への対応	5	農業法人化による農業機械の大型化と本町を代表する観光地を巡る大型バスをはじめ、観光客滞在により生じている渋滞対策が求められている。	5	
事業の効率性	4	道路構造令や将来の交通状況を考慮した道路構造で実施。事業は国庫補助制度や起債制度を活用。	4	
町民ニーズの把握	4	地域要望のほか、地域住民からの聞き取り	4	
合計	23		23	
改善を要する内容				
備考				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 建設水道課都市施設係

(公共事業評価用)

事業名	町道 丸山通り線道路整備事業						
事業年度	H24年度 ~ H30年度		事業実施場所	美瑛町本町・栄町1丁目~南町・寿町4丁目			
事業目的	町道丸山通り線は、美瑛駅から中心市街地を通る本町の骨格をなしてきた重要な路線であるが、凍上劣化が著しい状況にあり、また、電柱や電線が架空で設置されていることにより街並み景観が阻害されているため、歩道拡幅と電線類地下埋設により安心安全な歩行空間の整備を進め、あわせて良好な景観の形成により丸山通り地区への誘客・活性化を図る。						
事業費の状況			全体事業費	前年度まで	当該年度	翌年度以降	備考
	事業費		1,595,212 千円	591,177 千円	414,035 千円	590,000 千円	
	財源内訳	国・道支出金	717,044 千円	276,213 千円	227,431 千円	213,400 千円	
		地方債	832,900 千円	300,300 千円	175,000 千円	357,600 千円	
		その他特定財源	21,900 千円	千円	8,900 千円	13,000 千円	
		一般財源	23,368 千円	14,664 千円	2,704 千円	6,000 千円	
進捗率		100%	37.06%	25.95%	36.99%		
事業内容	L=1,062m, W=18.0m 歩道拡幅・無電柱化 ・高質空間形成施設		改良舗装L=457m 無電柱化L=457m	改良舗装L=260m 無電柱化L=260m	改良舗装L=345m 無電柱化L=345m		
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費1,595,212千円 ÷ 延長1,062m = 1,502千円/m					
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費 千円 ÷ 面積 ㎡ = 千円					
事業コストが高くなる理由	質の高い街並み形成に必要な事業のため(無電柱化、連続照明、歩道舗装等)						

●評価

評価内容	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	南側市街地の中核路線であり、安全な歩行空間整備は急務。また、本通地区の観光客を誘客し、中心市街地全体の周遊が可能。	5	
事業効果	5	歩道拡幅と無電柱化によって安心安全な街路空間が確保される。	5	
社会情勢等変化への対応	5	セミフラット歩道によるバリアフリー化が図られるほか、高質空間整備によって丸山通り商店街への誘客が促進される。	5	
事業の効率性	5	社会資本整備総合交付金の活用し、複数の補助事業メニューによる財源確保に努めているほか、関係機関との協議を重ね、早期に事業が完了するよう計画している。	5	
町民ニーズの把握	4	事業着手に際して設立された「丸山通り線街路整備事業連絡協議会」及び、美瑛町商工会を窓口としてヒアリングを実施し、街路整備にあたっての意見聴取を実施。	4	
合計	24		24	

改善を要する内容	
備考	

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 建設水道課都市施設係

(公共事業評価用)

事業名	丸山公園改修事業						
事業年度	H24年度 ~ H32年度		事業実施場所	美瑛町丸山1丁目			
事業目的	丸山公園は、昭和58年に供用開始した公園面積7.85haの町内唯一の運動公園であり、陸上競技場や屋内スポーツセンター等の施設が整備された公園であるが、供用開始から30年以上経過し、維持管理では対応できない範囲まで施設の老朽化が進んでいるため、美瑛町公園施設長寿命化計画に基づき改築更新を実施し、公園利用者が安心できる安全で快適な都市公園機能の確保を目指す。						
事業費の状況			全体事業費	前年度まで	当該年度	翌年度以降	備考
	事業費		251,892 千円	71,048 千円	53,044 千円	127,800 千円	
	財源内訳	国・道支出金	113,088 千円	34,708 千円	24,980 千円	53,400 千円	
		地方債					
		その他特定財源	43,564 千円		28,064 千円	15,500 千円	
		一般財源	95,240 千円	36,340 千円		58,900 千円	
進捗率		100%	28.21% %	21.06% %	50.74% %		
事業内容		園路広場改修1式 競技場トラックスタンド改修 トイレ改修N=1棟	園路広場改修1式 トイレ改修N=1棟	園路広場改修1式 競技場トラック改修1式	園路広場改修1式 競技場スタンド改修1式		
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費 千円 ÷ 延長 m = 千円					
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費 251,892千円 ÷ 面積 78,500㎡ = 3,208円/㎡					
事業コストが高くなる理由							

●評価

評価内容	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	バリアフリーや安全基準に合致しない施設、老朽化した施設の改修は急務。	5	
事業効果	5	本町におけるスポーツ振興の中心的な公園であるほか、各種スポーツイベントでの利用も多く、施設改修の効果は高い。	5	
社会情勢等変化への対応	5	園路のバリアフリー化に加え、競技場スタンド及びトラック改修により、スポーツサークル等の日常的な利用に対応している。	5	
事業の効率性	4	社会資本整備総合交付金の活用し、財源確保に努めているほか、「美瑛町公園施設長寿命化計画」に基づき、計画的な整備を実施。	4	
町民ニーズの把握	4	庁舎内検討会議による協議のほか、町教員からのヒアリングなど、社会体育施設としての施設整備を検討している。	4	
合計	23		23	
改善を要する内容				
備考				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり



平成29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 建設水道課都市施設係

(公共事業評価用)

事業名	憩ヶ森公園改修事業						
事業年度	H24年度 ~ H32年度		事業実施場所	美瑛町憩町1丁目			
事業目的	憩ヶ森公園は、昭和61年に供用開始した公園面積7.66haの町内唯一の地区公園であり、豊かな緑に包まれた空間を活かし、健全な心身を育む場として親しまれてきたが、供用開始から30年近く経過し、維持管理では対応できない範囲まで施設の老朽化が進んでいるため、美瑛町公園施設長寿命化計画に基づき改築更新等を実施し、公園利用者が安心できる安全で快適な都市公園機能の確保を目指す。						
事業費の状況			全体事業費	前年度まで	当該年度	翌年度以降	備考
	事業費		208,927 千円	79,157 千円	25,170 千円	104,600 千円	
	財源内訳	国・道支出金	63,715 千円	29,765 千円	8,950 千円	25,000 千円	
		地方債	千円	千円	千円	千円	
		その他特定財源	16,220 千円	千円	16,220 千円	千円	
		一般財源	128,992 千円	49,392 千円	千円	79,600 千円	
進捗率		100%	37.89%	12.05%	50.07%		
事業内容	園路広場改修1式 展望台・駐車場改修 遊具改修 ほか		園路広場改修1式 展望台改修1式 実施設計1式	園路広場改修1式	園路広場改修1式 遊具施設改修1式 休憩施設改修1式		
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費 千円÷延長 m = 千円					
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費 208,927千円 ÷ 面積 76,600㎡ = 2,727円/㎡					
事業コストが高くなる理由							

●評価

評価内容	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	バリアフリーや安全基準に合致しない施設、老朽化した施設の改修は急務。	5	
事業効果	5	市街地の街区公園には少ない資源を活用した空間を整備するほか、ウォーキングやサイクリングの中継基地としての機能も整備。	5	
社会情勢等変化への対応	5	園路のバリアフリー化、安全基準に合致した遊具に加え、催し広場のリニューアルによりイベント活用の促進が期待される。	5	
事業の効率性	4	社会資本整備総合交付金の活用し、財源確保に努めているほか、「美瑛町公園施設長寿命化計画」に基づき、計画的な整備を実施。	4	
町民ニーズの把握	5	H25に町民ワークショップを計3回開催。幅広い世代から意見を聴取し、リニューアル計画を検討している。	5	
合計	24		24	
改善を要する内容				
備考				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 建設水道課都市施設係

(公共事業評価用)

事業名	ことぶき公園改修事業						
事業年度	H24年度 ~ H28年度		事業実施場所	美瑛町寿町2丁目			
事業目的	ことぶき公園は、昭和53年に整備された幅広い世代の子どもたちが利用する街区公園であるが、供用開始から30年以上経過し、維持管理では対応できない範囲まで施設の老朽化が進んだため、美瑛町公園施設長寿命化計画に基づき、公園利用者が安心できる安全で快適な都市公園機能の確保を目指す。						
事業費の状況			全体事業費	前年度まで	当該年度	翌年度以降	備考
	事業費		112,036 千円	103,949 千円	8,087 千円	千円	
	財源内訳	国・道支出金	55,678 千円	51,708 千円	3,970 千円	千円	
		地方債	千円	千円	千円	千円	
		その他特定財源	4,117 千円	千円	4,117 千円	千円	
		一般財源	52,241 千円	52,241 千円	千円	千円	
進捗率		100%	92.78%	7.22%	%	%	
事業内容			園路広場改修1式 遊具改修N=7基 トイレ改修N=1棟	園路広場改修1式 遊具改修N=7基 トイレ改修N=1棟	バックネット改修1式		
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費 千円÷延長 m = 千円					
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費 112,035千円 ÷ 面積 9,400㎡ = 11,918円/㎡					
事業コストが高くなる理由							

●評価

評価内容	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	バリアフリーや安全基準に合致しない遊具等施設の改修は急務。	5	
事業効果	5	幅広い年代の子どもたちが利用する市街地の中核公園であるため、施設のリニューアルによる効果は高い。	5	
社会情勢等変化への対応	5	園路のバリアフリー化、安全基準に合致した遊具に加え、幼児用おむつ式ブランコなど、社会ニーズにあった施設を整備している。	5	
事業の効率性	4	社会資本整備総合交付金の活用し、財源確保に努めているほか、「美瑛町公園施設長寿命化計画」に基づき、計画的な整備を実施。	4	
町民ニーズの把握	4	遊具設計等に際して、子育て世代の保護者や保育士などからヒアリングを実施し、ニーズ調査を行っている。	4	
合計	23		23	
改善を要する内容				
備考				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 建設水道課水道整備室

(公共事業評価用)

事業名	双葉配水池更新事業						
事業年度	H27年度 ~ H28年度		事業実施場所	美瑛町			
事業目的	平和地区第1配水池は竣工後53年以上経過し、外壁、屋根及び地下水槽の維持修繕施設老朽化が著しい状態であり、第1・2・8号接合井についても同様な症状である、また電気計装設備も竣工後31年以上経過のため、危険性を解消することで、当該地区への安全で安心・安定した水道水の供給を目指す。						
事業費の状況			全体事業費	前年度まで	当該年度	翌年度以降	備考
	事業費		132,656 千円	9,785 千円	122,871 千円	千円	
	財源内訳	国・道支出金	43,723 千円	3261 千円	40,462 千円	千円	
		地方債	88,923 千円	6523 千円	82,400 千円	千円	
		その他特定財源	千円	千円	千円	千円	
		一般財源	10 千円	1 千円	9 千円	千円	
進捗率		100%	7.38% %	92.62% %	%		
事業内容			配水池施設更新 1箇所 実施設計・測量・地質調査	施設更新			
			接合井施設更新 3箇所 実施設計・測量・地質調査	施設更新			
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費 千円÷延長 m = 千円					
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費 132,656千円÷面積260㎡ =510千円/㎡					
事業コストが高くなる理由							

●評価

評価内容	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	配水池・接合井が竣工後53年以上、電気計装設備が竣工後31年以上であり、老朽化した施設の改修は急務	5	
事業効果	5	安全で安心・安定した水道水の供給ができる。	5	
社会情勢等変化への対応	5	老朽化による地下水槽の漏水、雨水等の混入の危険性の解消	5	
事業の効率性	5	簡易水道等施設整備費(生活基盤近代化事業)国庫補助金を活用し財源確保に努め、「地方生活基盤整備水道事業計画」に基づき計画的な整備を実施。	5	
町民ニーズの把握	5	需要増加に対応するため	5	
合計	25		25	
改善を要する内容				
備考				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

# 平成29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 教育委員会管理課

(公共事業評価用)

事業名	美瑛小学校改修事業						
事業年度	H26年度 ~ H29年度	事業実施場所	美瑛町西町2丁目1番1号				
事業目的	昭和52年に建設されて30年以上が経過し老朽化が進んだことから、耐震化を含めた大規模な改修工事を実施する。						
事業費の状況		全体事業費	前年度まで	当該年度	翌年度以降	備考	
	事業費	926,780 千円	271,789 千円	42,034 千円	612,957 千円		
	財源内訳	国・道支出金	272,002 千円	126,004 千円	千円	145,998 千円	
		地方債	573,500 千円	138,400 千円	39,100 千円	396,000 千円	
		その他特定財源	9,000 千円	千円	千円	9,000 千円	
		一般財源	72,278 千円	7,385 千円	2,934 千円	61,959 千円	
進捗率	100%	%	%	%			
事業内容	耐震補強工事 大規模改修工事	校舎4,809㎡ 屋体1,084㎡					
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費 千円 ÷ 延長 m = 千円					
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費 926,780千円 ÷ 面積 5,893㎡ = 157千円					
事業コストが高くなる理由							

●評価

評価内容	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	老朽化による大規模な工事のため必要である。	5	
事業効果	5	教育環境が整備され、安心安全な学校運営が確保できる。	5	
社会情勢等変化への対応	5	校舎、体育館棟の耐震化など、社会情勢等への対応はしている。	5	
事業の効率性	4	国の交付金等を活用し施工している。	4	
町民ニーズの把握	5	学校からの要望も聞きながら施工している。	5	
合計	24		24	
改善を要する内容				
備考				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成29年(平成28年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 教育委員会管理課

(公共事業評価用)

事業名	美沢小学校改修事業						
事業年度	H27年度 ~ H28年度		事業実施場所	美瑛町字美沢中央			
事業目的	昭和57年に建設されて30年以上が経過し老朽化が進んだことから、耐震化を含めた大規模な改修工事を実施する。						
事業費の状況			全体事業費	前年度まで	当該年度	翌年度以降	備考
	事業費		146,858 千円	35,240 千円	111,618 千円	0 千円	
	財源内訳	国・道支出金	0 千円	千円	千円	千円	
		地方債	146,800 千円	35,200 千円	111,600 千円	千円	
		その他特定財源	0 千円	千円	千円	千円	
		一般財源	58 千円	40 千円	18 千円	千円	
進捗率		100%	%	%	%		
事業内容	耐震補強工事大規模改修		校舎 1,149㎡				
			屋体 679㎡				
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費 千円 ÷ 延長 m = 千円					
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費 146,858千円 ÷ 面積 1,828㎡ = 80千円					
事業コストが高くなる理由							

●評価

評価内容	評価点	1次評価	※評価点	※2次評価
事業の必要性	5	防災機能の強化と施設の延命化を図るため、必要である。	5	
事業効果	5	教育環境が整備され、安心安全な学校運営が確保できる。	5	
社会情勢等変化への対応	5	避難所としての機能強化など、社会情勢等への対応はしている。	5	
事業の効率性	4	緊防防災・減災事業債を活用し施工している。	4	
町民ニーズの把握	5	学校からの要望も聞きながら施工している。	5	
合計	24		24	
改善を要する内容				
備考				

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり